

6. 防除対策

- 1) 圃場内をよく観察して、発病果実や発病枝は見つけしだい除去し、圃場外に持ち出すなど適切に処分する。前年に発生が確認された圃場では特に注意する。
- 2) 薬剤防除は第2表を参考にして早急に行う。薬剤防除はかけむらのないよう丁寧に散布する。降雨が続く場合は、降雨の合間に散布する。
- 3) すでに収穫が始まっている品種もあることから、薬剤防除の際には収穫前日数及び使用回数に注意する。
- 4) MBC 殺菌剤（トップジンM水和剤、ベンレート水和剤）では耐性菌が発生している圃場があるので、直近でこれらの薬剤を散布している場合は連用せずに作用機構の異なるグループの薬剤を散布する。

第2表 カキ炭疽病の防除薬剤（香川県農薬情報システムより抜粋）

作用機構のグループ名	FRAC コード	薬剤名	希釈倍数	使用時期/使用回数
QoI 殺菌剤	11	フリントフロアブル 25	2,000～3,000 倍	収穫前日/3回
MBC 殺菌剤	1	トップジン M 水和剤	1,000～1,500 倍	収穫前日/6回
		ベンレート水和剤	2,000～3,000 倍	収穫前日/6回
DMI 殺菌剤	3	オンリーワンフロアブル	2,000～3,000 倍	収穫前日/3回
		スコア顆粒水和剤	3,000 倍	収穫前日/3回
N-フェニルカーバメート +MBC 殺菌剤	10、1	ニマイバー水和剤	1,000 倍	収穫前日/3回
QoI+SDHI 殺菌剤	11、7	ナリア WDG	2,000～3,000 倍	収穫前日/2回
QoI+DMI 殺菌剤	11、3	ナティーボフロアブル	2,000 倍	収穫前日/3回



写真1 果実の病斑



写真2 鮭肉色の分生子を有した果実

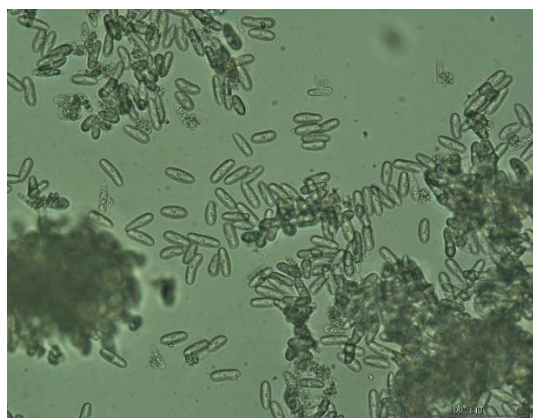


写真3 カキ炭疽病菌の分生子

病害虫防除所インターネットホームページ

URL: <http://www.jppn.ne.jp/kagawa/>